

■横浜市 第2回自転車等施策検討協議会 委員からの主な意見と対応

【委員からの意見】

意見の枠組み	主な意見
ハマチャリルールブックについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールブックを作成し、ルールをしっかり示すことは良い取組み。ルールはメリハリをつけて示すことが大事。 ・「絶対に守らないといけないこと」を、理由を含め分かりやすく伝えることが大切。罰則についても記載したほうが良い。 ・サッカー教室のコーチや塾の先生等が使える分かりやすい指導ツールがあると良い ・ビデオ映像や絵・図柄の活用、問題形式等自分で答えを考えるような仕掛け、ケースバイケースのQAなどは有効。 ・市内には道路の路側に緑のカラー舗装があったりする（あんしんカラーベルト）。そのような情報も含め「横浜市内での自転車の使い方」という項目があるとよい。 ・ルールの表現がマイルドになると「守らなくて良い」と解釈する。規則として守らなくてはならないという意識付けが必要。
将来の対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールが遵守された状況の先には、道路交通法には書くことができないような「マナー」のことも自転車社会の成熟には必要
交通安全教室等のあり方・進め方について	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、高齢者の自転車大会は大変良いイベント。「ハマチャリルールブック」とイベントをつなげたり、区予選など多くの人々が楽しく参加できる仕組みが必要。 ・交通ルールを遊びながら学べ、自然と正しいテクニックが身につくイベントが良い。 ・交通安全教室等の場所を提供してくれる連携先（自動車学校等）があると良い。
交通ルール等の周知に関する強化・連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・バスに載せているドライブレコーダーなどの映像の活用も有効であり、バスや電車の車内で流すことも効果的だと思う。 ・警察から取締までいかなくても注意、警告をしてほしい。 ・商店街を通じた顧客へのルールやイベントの周知などは実現性がある。 ・自転車メーカーや自転車を販売する大手量販店等様々な団体と連携した周知が必要。 ・母子手帳交付時や子育ての集まり等のタイミングでの保護者への周知が必要。 ・民間企業への周知は、努力義務として明文化した方が進むと思う。
全体的なルールについて	<ul style="list-style-type: none"> ・悪気なく適当な利用をする「ルールを知らない人」だけでなく、「知っていても守らない」、「仕方なく守れない」人を守る必要性を認識させ守ってもらうことも大切 ・自転車は正しく乗らないと、被害者にも、加害者にも、他の事故の原因者（事故の誘発）にも繋がることを認識させることが必要。 ・自転車の交通ルールは、道路上だけでなく、駅前広場や自由通路なども考慮することが必要。押し歩きの協力なども含めていくとよい。 ・法定外表示も含め、利用者が多いところで道路管理者や警察等が連携した周知を試してほしい。

【対応方針】

- 自転車総合計画に「ハマチャリルールブック」作成を位置づけ、迅速に策定を進める
- ルールが守られる将来も見据え、**詳しさ、分かりやすさを両立**するルールブック、指導ツールを検討
- 映像メディア等を含めた**各コンテンツの内容、伝達方法等**を検討
- 様々な団体と連携・協力した**交通安全教室、イベント等**を検討
- 警察、行政、バス事業者、商店街等関係者の連携を深め、**既存の周知、啓発、広報手段**を有効活用
- 市全体の様々な繋がりを活用し、様々な視点から**新たな周知、啓発、広報手段**を開発
- 交通ルールの背景にある「**遵守の必要性**」を明確にしながら「**まもる**」施策を検討
- **道路以外の公共の場所等**も盛り込んだ「ハマチャリルール」を検討、周知の実施

■ 自転車利用のポリシー

自転車利用の目的	移動するための手段		楽しみのための手段
	駅から電車に乗る	目的施設に行く	
利用シーン		通勤・通学	お出かけ (買い物、通院、業務)
まもる	<p>安全・安心の確保を目的とした ルールを守った利用</p>		
はしる ・ とめる	<p>供給に合わせた 利用増加の抑制</p>	<p>需給バランスの確保を前提とした 適切な利用の促進 利用の促進</p>	
いかす	<p>メリットを活かすことを目的とした 便利な手段としての利用 快適で楽しむ利用</p>		

自転車等施策検討協議会スケジュール

● 本資料は、横浜市自転車総合計画の策定に向けた各検討協議会のスケジュール及び検討内容を整理したものです。

H26.10.22

第1回 横浜市自転車総合計画の理念と基本方針の検討

■ねらい

- 横浜市自転車総合計画の目的の確認
- 自転車に関する課題の再認識と共有化
- 自転車利用の理念及び施策の基本方針の検討

■確認、検討事項

- 「みんなが快適に過ごせるまち」の実現に向けて、総合計画策定の目的、課題を再確認します。
- 自転車を「どのように使えるようにしたいか」という3つの理念を検討します。
- 理念の実現に向けて「具体的な施策の方向性は何か」という4つの基本方針を検討します。

自転車利用環境の理念(案)

ルールを守って【安全に使える】

マチに合わせて【かしこく使える】

ハマの風を感じて【楽しく使える】

施策の基本方針(案)

まもる 守るための正しい知識

はしる 安全・快適な通行空間

とめる 使い方に応じた駐輪環境

いかす 自転車を適切に活かす仕掛け

基本方針に沿った施策の方向性の検討(全3回)

■全体のねらい

- 個別の取り組みを「4つの基本方針」を軸に整理し、施策の方向性を明らかにします。

H26.12.19

第2回 「まもる」施策の検討

- ねらい ● 基本方針「まもる」の施策体系の整理と、施策の検討を行います

まもる

①主な検討テーマ

- 安全を確保する交通ルールを身に付けるための取組
- 放置をせず正しく停める意識の啓発

②確認・検討事項

- 「まもる」の方向性
- 意識啓発と指導の連動施策
- 推進に向けた地域協働の仕組み

H27.1.23

第3回 「とめる」施策の検討 「はしる①」施策体系の整理

■ねらい

- 基本方針「とめる」「はしる」の施策体系の整理及び、「とめる」の施策の検討を行います。

とめる

①主な検討テーマ

- 駐輪の質に応じた駐輪環境
- 民間活力導入、附置義務等による供給量の確保

②確認・検討事項

- 「とめる」の方向性
- 需給バランス確保のための料金、サービス等の検討
- 附置義務自転車駐輪場制度の導入検討

H27.3.24

第4回 「はしる②」施策の検討 「いかす」施策の検討

■ねらい

- 基本方針「はしる」及び「いかす」の施策体系の整理と、施策の検討を行います。

いかす

① 主な検討テーマ(予定)

- 観光、スポーツ等での自転車利用の促進
- お出かけ時の過度なクルマ利用から適度な自転車への転換促進

②確認・検討事項(予定)

- 「いかす」の方向性
- 自転車を使いやすくする情報提供のあり方
- 過度なクルマ利用から自転車など適切な交通手段の利用へ転換を促す施策案

はしる①

①主な検討テーマ

- 自転車ネットワークのあり方
- 自転車通行空間の整備形態

②確認・検討事項(予定)

- 「はしる」の方向性

はしる②

①主な検討テーマ(予定)

- 自転車ネットワークのあり方
- 自転車通行空間の整備形態
- 自転車通行空間の整備の進め方

②確認・検討事項(予定)

- 「はしる」の具体化に向けた考え方

H27.4 以降の動き

横浜市自転車総合計画の素案及び施策実行スケジュールの提示

■ねらい

- 横浜市自転車総合計画で示す「施策の方向性」の確認
- 施策実行スケジュールの提示(施策の実行に向けた具体的な手続き)

■検討・確認事項

- 基本方針と施策体系に基づく「横浜市自転車総合計画(素案)」を示します。
- 市民意見公募に向けた今後のスケジュール、修正方針を検討します。

自転車総合計画素案の構成イメージ

- 将来都市イメージ
- 基本方針(まもる/はしる/とめる/いかす)
- 施策体系図
- 実現に向けた実施施策
- 施策の実行スケジュール(概略)

施策実行スケジュールの提示

- 施策の実行スケジュールの提案
- 各施策の優先順位の検討
- 各施策の目標年次の設定(短期/中期/長期)
- 具体の展開に向けた体制・役割分担・・・など

市民意見公募に向けた確認事項

- 実施時期の調整
- 意見公募方法について

市民意見公募の実施及び
横浜市自転車総合計画案の策定(予定)